

難加工材を鍛造



片桐製作所が新製造法

試験ライン設置 年内にも量産化

【山形】片桐製作所（山形県上市市、片桐鉄哉社長、023・679・2201）は、早ければ年内にもステンレス（SUS304）など鍛造による部品加工が難しい難加工材の新製造技術を確立し、量産化に乗り出す。本社工場内には試験ラインを設置。量産化に向け社内から計6人の専門チームを編成した。主力の冷間鍛造による部品加工に加え、新規の顧客開拓につなげる。

片桐製作所は難加工「造」と呼ぶ製造法を開発。温間鍛造の比較的から取り組んだ。このに低い温度領域を使うほどの成果として社内で「精密低温間鍛自の温度制御、表面潤滑」ステンレスなどを比較的低い温度で加工する（難加工材のサンプル）

滑処理技術などを用いて、課題だった金型の耐久性を保つことを可能にした。

精密低温間鍛造による量産化試験は、ステンレスのほか、高炭素鋼でも取り組んでいる。ステンレス加工品は、住宅設備関連や燃料電池関連分野の新規開拓を目指す。一方、高炭素鋼加工品は、自動車関連分野向けへの供給を狙う。同社は今回の量産化技術を12日からの展示会「MF-Tokyo2017」（東京・有明）で発表する。

同社は冷間鍛造による自動車部品生産が主力で、年商は約30億円（2017年6月期見込み）。